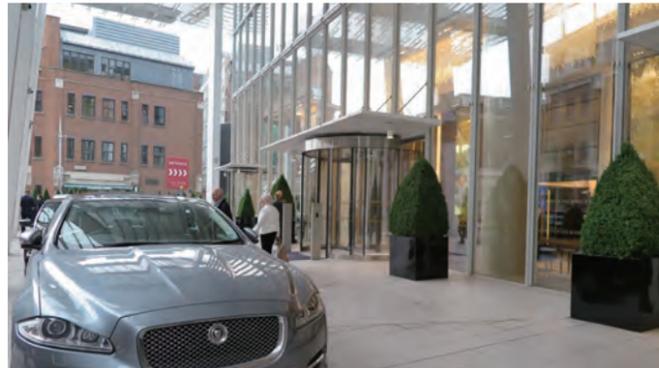




ザ・シャード「The Shard」は地上 87 階建て、尖塔高は 310m。西ヨーロッパで最も高いビルであり、2008 年 9 月に着工し 12 年 7 月に竣工した



「Shangri-La Hotel, At The Shard, London」の案内板。建築設計はボンピドゥー・センターや関西空港ターミナルビルで知られるイタリア人建築家レンゾ・ピアノ氏



シャングリ・ラ・ロンドンのエントランス車寄せ。この超高層ビルは、ピラミッドを垂直に引き伸ばした形状で、互いに接触しない八つの面からなる



St.Thomas Street にあるホテル正面玄関に立つ正装したドアスタッフ



調度品や美術品にアジアと英国、現代と古典が調和したデザインのエントランスホール



35 階のレセプションロビーから 34 階のミーティングフロアを俯瞰。眼下にテムズ川を望め、セントポール寺院、世界金融センターのシティ、ロンドン塔、タワーブリッジなど観光に出かけなくても、ホテル内のさまざまなアングルからロンドンを眺めているだけで有意義な一日を過ごせる



シャングリ・ラ・ロンドンのグランドフロア総合レセプション



レセプションデスク前には東洋趣味のロビーラウンジ



52 階にあるバー「GÖNG」のバーカウンター



バー「GÖNG」のシッティングエリア。ロンドンで最も高いロケーションのバーである

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

### Shangri-La Hotel, At The Shard, London

ザ・シャード「The Shard」は地上 87 階建て、尖塔高は 310m。西ヨーロッパで最も高いビルであり、2008 年 9 月に着工し 12 年 7 月に竣工した。建築設計はボンピドゥー・センターや関西空港ターミナルビルで知られるイタリア人建築家レンゾ・ピアノ氏だ。この超高層ビルは、ピラミッドを垂直に引き伸ばした形状で、互いに接



筆者 **小原 康裕**  
ホテルジャーナリスト  
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74 年 Munich Re 入社。85 年築地原健代表取締役。2001 年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。  
[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)  
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第 2 弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年 6 月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



ファインダイニング・バー「TING」は中国語で“リビングルーム”という意味で、ロンドン中心部の35階からの絶景と共に食事を楽しめる



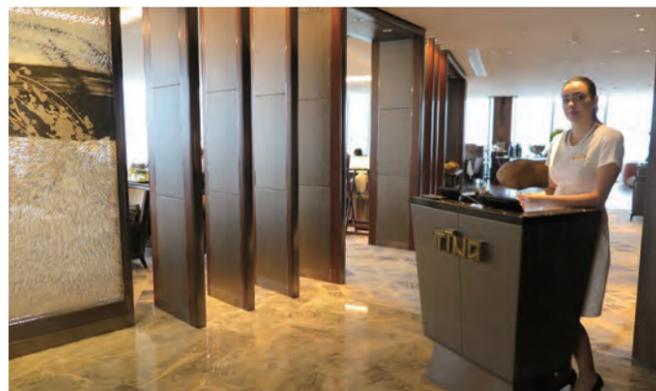
シャングリ・ラ・ロンドンは、スイートを含む全202室のゲストルームを擁して2014年5月にオープンした。「The Iconic City View Room」の客室からは、ロンドン観光の目玉であるタワーブリッジがくっきりと望める

触れない八つの面からなる。外壁は英語で“破片”を意味する「Shard」の名称通り、角度を付けてガラスが取り付けられている。ザ・シャード館内には、オフィス、レストラン、レジデンスなどが入り、34-52階部分にはシャングリ・ラ・ホテルズ & リゾーツがロンドン初のホテルとして、「Shangri-La Hotel, At The Shard, London」の名称でオープンした。

保守的なロンドンの街並みで、このような超高層ホテルが実現するとは数年前までは考えられないことであった。シャングリ・ラ・ロンドンは、パブリックスペースやゲストルームから、今までどのホテルでも経験することは不可能だった広範囲のロンドンの絶景を堪能させてくれる。セントポール寺院、世界金融センターのシティ、ロンドン塔、タワーブリッジなど観光に出かけなくても、ホテル内のさまざまなアングルからロンドンを眺めているだけで有意義な一日を過ごす。

シャングリ・ラ・ロンドンは、スイートを含む全202室のゲストルームを擁して2014年5月にオープンした。今回は「The Iconic City View Room」を紹介したい。約50㎡の広さを持ち、その名前の通りロンドンの代表的な建造物を一望の元に俯瞰できるパノラマビューの部屋だ。ファインダイニング・バー「TING」は中国語で“リビングルーム”という意味で、ロンドン中心部の35階からの絶景と共に食事を楽しめる。52階にあるバー「GÖNG」はロンドンで最も高いロケーションのバーだ。その他、エントランスホールに続くカフェ・デリの「LANG」も人気がある。52階にはインフィニティプールと24時間オープンしたジム「Gym & Sky Pool」も用意している。

シャングリ・ラ・ロンドンは、これまでのホテルに対する保守的な概念を払拭する画期的な試みであった。ガラスの魔術師、レンゾ・ピアノが放った大胆な“ガラスのピラミッド”。当初は重厚なロンドンの街並みに近未来的な建物は相容れないと反対論が多かったが、実際に完成してみると不思議なことに周囲の風景に溶け込んでいる。英国ロンドンの地に東洋の趣を融合させたヨーロッパモダンのホテル。実に興味ある組み合わせのホテルと言える。



ファインダイニング・バー「TING」のレセプション。アートワークのパーティションで、ロビー奥に半オープン形で広がる



「TING」の窓際席からは素晴らしいロンドンの眺望が得られる



「The Iconic City View Room」のキングベッドルーム



約50㎡の広さを持ち、その名前の通りロンドンの代表的な建造物を一望の元に俯瞰できるパノラマビューの部屋だ



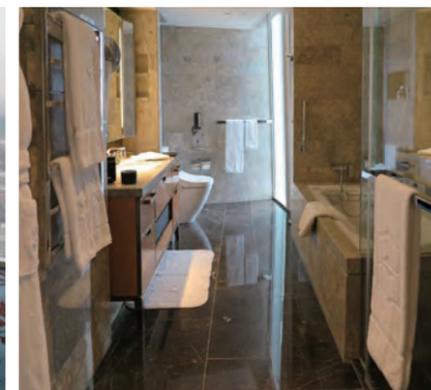
エグゼクティブシェフのガレス・ボーウェン氏が腕を振るい、アジア料理もメニューにある



ブレイクファストはbuffestスタイルで多くのメニューが並ぶ。また、蒸籠（せいろう）に入った点心のセットもオーダーできる



外壁は英語で“破片”を意味する「Shard」の名称通り、角度を付けてガラスが取り付けられている



キングベッドの置かれた背後は、水回りの設備が機能的配置でレイアウトされている